



本号の主な内容

- 2面 第33回全国造園デザインコンクール
審査員・講評と受賞者58名一覧
- 3面 ロイヤルフローラ・ラーチャブルック2006審査会報告
日造協理事、AIPH副会長 和田新也
- 4面 【総・支部だより】 栃木県支部 / 奈良県支部



総評を述べる藤井委員長

第33回 全国造園デザインコンクール

文部科学大臣奨励賞に長野県須坂園芸高等学校

前回 国土交通大臣賞に続き今回 日本造園学会賞 創設

当協会主催の第33回全国造園デザインコンクール表彰式が2月5日、東京・千代田区麹町の弘済会館で行われた。コンクールでは、最も優れた指導力を発揮した高校に贈られる文部科学大臣奨励賞を昨年引き続き長野県須坂園芸高等学校が受賞したほか、国土交通大臣賞を前川今日子さん、今回から設けられた日本造園学会賞を小林睦美さん、日本造園建設業協会賞を丸山美穂さん、ランドスケープコンサルタンツ協会賞を佐藤愛さん、全国高等学校造園教育研究協議会賞を秋山未来さん、山本あやねさんが受賞した。

表彰式は、佐藤四郎会長が「伝統あるコンクールに4百点を越える応募が寄せられ、審査会では素晴らしい作品を拝見させていただいた。受賞作は中でも特に優れた作品だ。これからはいろいろな問題も指摘されていくが、人間的に優れた造園技術者としての成長を期待している」、国土交通省から角南勇一都土地域整備局公園緑地課緑地環境推進室長が「始めて審査

表彰式、懇談会を開催



受賞者、審査員らで記念撮影

に参加し、4百点もの作品に圧倒されたが、CO2吸収やヒートアイランド対策など、ニーズを捉えた作品も多かった。今回は、デザインだけでなく、実際に作ることを念頭に置いた作品の層の充実を楽しみにしている」と祝辞を述べた。

「授賞は実習が大半で12月に入ってから図面に取掛かった。希望した15名のうち提出できたのは9名で、これだけでも相当な努力が必要だが、さらに大臣賞をはじめ、5作品が入選するなど、嬉しい結果となった。これを励みにさらに努力していきたい」と述べ、そのほか、屋上緑化は、身近に見たことばなかったが想像を膨らませながらデザインした(前川さん)、先生や先輩の指導で頑張ることができた(小林さん)、すごい賞をいただけて驚きとともに嬉しく、有り難く思っている(丸山さん)、前回も先輩が同賞をいただき、学校にも少し貢献できたかなと思う。表現力はまだまだだがこれからも勉強していきたい(佐藤さん)などと感想を語った。

樹林

日本全体では景気低迷、公共事業縮減の中、造園事業が不振を極めている。造園建設業界は失礼ながら、時流には大変、鈍感な業界である。長年、請負

致に向け、石原都政のしたたかな戦略の下、都立公園の規模拡大や屋上・壁面緑化事業のさらなる推進、都立学校の校庭の芝生化など、一挙に緑化事業の拡大の構想が示された。となると、選挙の行方も気になるところであるが、具体化すれば空前の事業量となり、

一方、東京都の構想が一気に具体化した場合、造園建設業界の消化能力も気になる。技術力、人材、材料調達能力、いずれをとっても不安を感じる。特に技術力とも関わるが、人材面での手不足が気になる。造園系各企業がバブル崩壊後、人の採用を手控えてきた。

都立学校の校庭の芝生化を目指すという。とりあえず今年度、約70校、20億円の予算規模となる。単純計算すれば1校当たり約3000万円。これだけの経費をかければ給排水設備を要した砂仕様の基礎整備もできる。莫大な砂の量が必要となる。肝心の芝生材料も

園建設業が持ち合わせているかも心配である。なお、今般の東京都の大事業が造園建設業界にとって夢物語で終わってしまうのではないかと、これも危惧される。千載一遇のチャンスとして実利をものにするためにも、また、無駄なく、一定以上の出来栄や質を担保するために、設計・施工一括発注方式や指名競争入札制度の導入など、業界をあげて発注者側に強く働きかけておくことも必要となる。

造園建設業が東京を緑の首都に変えられるか



近藤 三雄

造園建設業にとっては誠にいい話となる。

その上、団塊世代が定年年齢に達した。技術者の総量不足も正真、懸念される。仕事の少ない地方の企業から一時的に人材をトレードするという思い切った

半端な量ではない。十分、調達できる量が確保できるのか。芝生の造成工事が学校の行事に及ぼす影響を最低限にするため、つまり養生期間を限りなく短縮するためには、大型ロール状の厚

いずれにしても小事を捨て、全国の造園建設業が、その浮沈を分け、東京を再び世界に誇れる緑の首都に再生する事業に英知を結集して取り組む時が来た。

このよつな中、今、唯一、首都東京だけが熱い。都市再生の名の下に都内各所で大規模な再開発事業が次々に展開し、そろそろ先が見えてきたと思っ

た矢先、2016年のオリンピック招

想では2016年までに2000校の

技術面では、質の高い屋上緑化や壁面緑化を実現するためのノウハウを造

る事業に英知を結集して取り組む時が来た。

「みどりの日」5/4 各地で多彩なイベント

春季における都市緑化月間推進運動が4月1日から6月30日までの3カ月間にわたって全国で展開される。運動は5月4日の「みどりの日」を中心に行われ、緑の愛護の集いや都市緑化基金等への募金活動が行われる。「みどりの日」は、05年5月に国会で可決され、今年1月から施行。これに伴い4月29日が「昭和の日」、5月4日が「みどりの日」となった。

また、06年8月8日の閣議決定で、「みどりの日」に国営公園等の無料開放や自治体などの協力により、国民が緑に親しむための各種行事等を実施することとして、そのほか、毎年4月15日から5月14日までを「みどりの月間」とし、「みどりの日」への国民の関心と理解を一層促進、「みどりの日」についての国民の造詣を深めるための月間として、各種催事が実施される。

審査委員長
藤井英二郎(千葉大学園芸学部緑地・環境学科教授)

第33回全国造園デザインコンクールには、全国から404件のデザインが応募されました。昨年の411件に比べてやや少なかったものの、その7割強を占める農業高校の数が増えました。造園デザインコンクールに対する関心が広がっていることが表れかと思えます。

高校生では優れたデザインが結果的にいくつかの高校に集中することになりました。指導に当たられた先生方の努力と熱意に改めて敬意を表します。大学生ではその質に大きなバラツキが見られ、このコンクールに対する取り組みの多様さが窺えました。高校生のデザインには「一生懸命」の課題に取り組んだ様子が指された先生方の努力が表れ

ていました。大学生のデザインには自由な発想で楽しく取り組んだ様子が窺えました。造園空間は人と植物をはじめとする生き物とともに生活する場ですので、そのデザインには人と生物の要求を合わせ充たす総合力が必要です。何よりも多様で楽しい生活体験が必要です。

添野龍雄(文部科学省初等中等教育局参事官付教科調査官)

造園空間をデザインする時には、知識や技術を身に付けていることは当然ですが、そこに暮らす人々、そこを利用する人々、そこを見る人々など、常に人の存在を前提としたものでなくてはならない。それを考えることで素晴らしい作品が誕生していくものと思います。今回も個性的で素晴らしい多くの皆さんの作品に触れることができました。

審査員・講評



国土交通大臣賞 前川今日子さんの作品

当協会主催のランドスケープコンサルタンツ協会並びに全国高等学校造園教育研究協議会共催、文部科学省、国土交通省、全国農業高等学校長協会、日本造園学会後援の平成18年度第33回全国造園デザインコンクールの審査結果が決定した。コンクールは造園の設計及び製図技術の向上と奨励のために実施。応募資格は、一般の部、大学生の部、高校生の部の3部とし、課題はA住宅庭園、B街区公園、C公共的空間、D実習作品の4部門。今回の応募総数は、404点。このうち入選18点、佳作10点、奨学賞30点の計58点が入賞した。

長野県須坂園芸高等学校の丸山さんの作品は、幾何学模様と植栽を巧みに組み合わせていると感じました。同校の前川さんの作品は空間を有効に活用し、工夫の跡が随所に見られます。二人とも、自分の今までの学びをうまく形にできたのではないのでしょうか。多数の素晴らしい作品の応募がある一方、応募してくる高等学校に偏りが感じられてきています。今後は、造園を学ぶより多くの生徒が造園デザインを学び、作品を制作し、本コンテストに応募してください。

角南勇二(国土交通省公園緑地課緑地環境推進室長)

今回はじめて審査に参加させていただきましたが、全国から400件もの応募があり、しかも作品のレベルが高いことに驚かされました。次代の造園界を担う若者がたが着実に育ちつつあることを大変頼もしく思うと同時に、熱心に指導されているであろう先生方に深く敬意を表する次第です。

ただ、中には、理念が先行して独り善がりになってしまったものや、設計条件の把握が十分でないものなども見られました。カリキュラムの関係上難しいのかもしれませんが、いいものを数多く見て設計したものごとのように使われるかを想像する力をそだててほしいと思います。そんな中で、国土交通大臣賞に選ばれた前川今日子さんの作品は、「自然から得た季節の恵み」をテーマに、訪れた人に「やすらぎ」、「散策」、「感動」、「喜び」を与える様々な工夫が施されています。屋上であることを忘れさせられるくらいに豊かな緑が提案され、しかも排水の確保や軽量土壌の使用など屋上緑化の留意点にしっかりと配慮がなされていました。都市のヒートアイランド現象が憂慮される昨今、このような屋上を全国各地の都市に出現させたいものです。

全国造園デザインコンクール

平成18年度 第33回全国造園デザインコンクール受賞者名簿

部門	入賞者名	所属校	賞状
大学生の部 (4名)	住宅庭園部門	木村 尚	株式会社セツ設計事務所
	住宅庭園部門	佐藤 愛	兵庫県立淡路看護専門学校
	住宅庭園部門	山本 千枝子	南九州大学
	住宅庭園部門	遠藤 大	文理大学
	街区公園部門	小林 睦	東京農業大学
	住宅庭園部門	丸山 美穂	長野県須坂園芸高等学校
	住宅庭園部門	秋山 美穂	長野県須坂園芸高等学校
	住宅庭園部門	小林 真	長野県須坂園芸高等学校
	住宅庭園部門	藤原 真	長野県須坂園芸高等学校
	住宅庭園部門	石井 結子	長野県須坂園芸高等学校
高校生の部 (18名)	住宅庭園部門	近藤 千夏	群馬県立女子大学
	住宅庭園部門	小橋 由佳	群馬県立女子大学
	住宅庭園部門	前川 今日子	長野県須坂園芸高等学校
	住宅庭園部門	高嶋 悠一	長野県須坂園芸高等学校
	住宅庭園部門	高嶋 悠一	長野県須坂園芸高等学校
	住宅庭園部門	山本 美穂	長野県須坂園芸高等学校
	住宅庭園部門	山本 美穂	長野県須坂園芸高等学校
	住宅庭園部門	山本 美穂	長野県須坂園芸高等学校
	住宅庭園部門	山本 美穂	長野県須坂園芸高等学校
	住宅庭園部門	山本 美穂	長野県須坂園芸高等学校
大学生の部 (30名)	住宅庭園部門	山本 美穂	長野県須坂園芸高等学校
	住宅庭園部門	山本 美穂	長野県須坂園芸高等学校
	住宅庭園部門	山本 美穂	長野県須坂園芸高等学校
	住宅庭園部門	山本 美穂	長野県須坂園芸高等学校
	住宅庭園部門	山本 美穂	長野県須坂園芸高等学校
	住宅庭園部門	山本 美穂	長野県須坂園芸高等学校
	住宅庭園部門	山本 美穂	長野県須坂園芸高等学校
	住宅庭園部門	山本 美穂	長野県須坂園芸高等学校
	住宅庭園部門	山本 美穂	長野県須坂園芸高等学校
	住宅庭園部門	山本 美穂	長野県須坂園芸高等学校



日本造園学会会長賞 小林睦美さんの作品



日本造園建設業協会会長賞 丸山美穂さんの作品



ランドスケープコンサルタンツ協会会長賞 佐藤愛さんの作品

都市の緑は 私たちの潤いのある暮らしに欠かすことのできない社会基盤です。造園デザインは、そんな緑を生活空間にどのように取り込んで行くかを具体的な形にして示す、重要な仕事です。学生の皆さんには、是非、さらに研鑽を積み、緑豊かな生活環境づくりに実際に活躍して欲しいものです。

また、中には、理念が先行して独り善がりになってしまったものや、設計条件の把握が十分でないものなども見られました。カリキュラムの関係上難しいのかもしれませんが、いいものを数多く見て設計したものごとのように使われるかを想像する力をそだててほしいと思います。そんな中で、国土交通大臣賞に選ばれた前川今日子さんの作品は、「自然から得た季節の恵み」をテーマに、訪れた人に「やすらぎ」、「散策」、「感動」、「喜び」を与える様々な工夫が施されています。屋上であることを忘れさせられるくらいに豊かな緑が提案され、しかも排水の確保や軽量土壌の使用など屋上緑化の留意点にしっかりと配慮がなされていました。都市のヒートアイランド現象が憂慮される昨今、このような屋上を全国各地の都市に出現させたいものです。

安全な空間の創造、周辺都市公園とのネットワーク等を自らの計画技術をもとに図面での表現技術等にも優れた小林睦美さんの作品を選ばせて戴いた。今後とも、良質なランドスケープの保全・再生・創出に向けて、計画から管理運営に至る各種の技術的提案をともなう多数の応募が期待される。

鎌田 幸生(全国高等学校造園教育研究協議会理事長)

群馬県立勢多森林高等学校)

今回高校生の部では306点の作品が出品されました。学校数では35校、昨年から力作の応募を望みます。

作品全般については、大学生はアイデアを盛り込んだものが多く、高校生は表現力の高いものが多かったように思います。しかし、応募作品の中には、応募要領に合致していないものがいくつか見受けられ、細かい配慮をお願いできればと思います。

今回、選にもれた作品の中に、アイデアや表現力の高いものも見られました。日造協のホームページに入選作品が掲載されていますので、次回作品に参考にして頂ければと思います。

岡田 誠司(ランドスケープコンサルタンツ協会会長)

このコンクールは昨年、国土交通大臣賞が設けられ、今年さらに造園学会賞が創

設されました。この二つの賞により、このコンクールは名実ともに斯界の権威ある催しとなつていえます。

昨年度までの造園建設業協会校造園教育研究協議会副理事長(埼玉県立熊谷農業高等学校)

昨年より高校生の作品が増え、特に公共的空間部門への応募が著しく増加し、課題条件に対する理解が深まったように思います。今後、高品質の作品を期待できるといえます。

作品全般については、大学生はアイデアを盛り込んだものが多く、高校生は表現力の高いものが多かったように思います。しかし、応募作品の中には、応募要領に合致していないものがいくつか見受けられ、細かい配慮をお願いできればと思います。

今回、選にもれた作品の中に、アイデアや表現力の高いものも見られました。日造協のホームページに入選作品が掲載されていますので、次回作品に参考にして頂ければと思います。

枝吉 茂種(ランドスケープコンサルタンツ協会会長)

全国から寄せられました多数の作品を、楽しく審査させていただきます。

高校生の部ですが、「住宅庭園部門」については何れも庭園の構成力、図面の表現力に素晴らしいモノを感じました。

第33回 日造協

2面からの続き
「街区公園部」に求められているモノを
「公園」のイメージを捉えき
れていませんでした。
「公共的公園部」は、昨年
より設けられた部で、応募
件数は少数でしたが、屋上緑
化を楽しく表現していました。
大学生の部ですが、「住宅
庭園部」では、高校生より
勝る作品が少なく感じました
し、他の2部門においても新
鮮なコンセプトを感じる作品
があまり無かったことは残念
でした。

佐藤 四郎 (日本造園建設業協会会長)

今年も多くの優秀な作品の
応募があり、主催者として大
変うれしく思います。

昨年より国土交通省、
日本造園学会の後援を頂き
国土交通大臣賞を創設、今年
度より日本造園学会長賞を
創設することができました。

今後関係各位のご協力を
得ながら内容の充実等を図
り、このコンクールが、次代
を担う若い方々の挑戦の場と
しての役割を担うことが出来

ますよう、引き続き鋭意努力
していきたいと思えます。
また、この場をお借りして
趣旨にご賛同・ご協力いただ
いております関係者の皆様に
御礼申し上げます。
高橋 一輔 (日本造園建設業協会技術委員長)



住宅庭園計画図
全国高等学校造園教育研究協議会長賞
秋山未来さんの作品



実習作品
全国高等学校造園教育研究協議会長賞
山本あやねさんの作品

ツカ)を設定、日常生活に
対応してのゾーニング。モ
ンで飽きない庭空間、概観透
視図の建物をワンカラーで表
現し、造園空間を強調する手
法、等々の工夫と指導教
官の努力が感じられる。こ
のデザインを実際につくるこ
とを考えると概算費は約1
千万円くらいだと思われる。
また、実現すると素晴らしい
と思う佳作の章宇欣(イウ
キン)さんの作品も、ゾーニ
ングを深く考慮しての計画手
法は素晴らしいものがある。

建設業協会委員長
本コンクールの応募数は
年々増加する傾向がみられ
本年度も404件もの応募が
あった。応募内容を見ると
身近で取り組みやすいことも
あるのか、住宅庭園部門が
62.2%と最多である。

この中で私が関心を持った
ものの一つに、住宅庭園であ
りながら、樹木の炭酸ガス吸
収効果をテーマに取り組んだ
作品だ。
これは、1年間の家族人数
分の炭酸ガスを樹木で吸収さ
せることを視野に入れたデザ
インである。これまで炭酸ガ
スの吸収量をテーマにするの
は、公共緑地や官民の屋上緑
化等で昨今の社会的ニーズを
踏まえ環境対策として計画す
る例が多いが、住宅庭園でこ
の点を考慮したことに意義を
感じた。
1992年の地球環境サミ
ット開催以来、公共機関を主
体に環境対策を取り組む例は
増え、当初は生物の多様性や

緑の二酸化炭素の吸収効果等
の存在価値に重点を置いた政
策が多かった。そして、最近
では都市緑化基金が推進して
いる社会・環境貢献緑地評価
システム(SEGES)のよ
うに、環境対策の対象を民間
まで、評価項目を景観・環境
教育・レクリエーション等に
まで広げている。
今では、住宅庭園は家族が
憩い楽しむ空間として審美性
評価に重点を置いてきたが、
昨今の社会的趨勢を鑑みると、
地球やさらに地球環境問題も
視野に入れた社会的環境評価
も加えたいかがだろうか。
これらの視点は、建築で意匠
と構造があるように、庭園で
もデザインと環境等の構造の

ロイヤルフローラ・ライチャブルック2006 審査会報告

日本造園建設業協会理事/A.I.P.H副会長 和田 新也

タイ国エエンマイ市にお
いて開催された、ロイヤル
フローラ・ライチャブルック
2006は、目標とされ

た200万人をはるかに上
回る380万人の入場者を
迎え、盛況のうちに1月31
日無事閉会いたしました。

当協会でもツアーを組み視
察に参りましたが、多くの
日本人を含む海外からの入
場者も約35万人ほどを数え
ました。

今回の園芸博覧会はBIE
(国際博覧会協会)および
AIPH(国際園芸家協

会)の認証のもと行われた
国際園芸博覧会です。この
クラスのアIPH認証博覧
会では、国際審査団の設置
が義務付けられており、今
回は和田が審査委員の一員
として審査会に参加いたし
ました。構成は委員長がA
IPH会長のファーバー氏
(オランダ)、その他オラン
ダ、ベルギー、カナダ、日
本から各1名、地元タイか
ら4名の計9名の審査団で

す。
当博覧会におけるコンペ
は大別すると12クラスから
なり、われわれ国際審査員
会(グランド・ジュリー)
が受け持つ役割は、国際屋
外庭園(大規模、小規模に
分類)、国際屋内常設展示
の直接審査、および別に審
査員会によって審査された
その他のクラスの審査結果
の承認です。審査会は開会
直前の10月31日と閉会前

1月28日の2回に分けて行
われました。
その経緯の詳細につきましては紙面の関係もあり、
省略させていただきますが、
第1回目の中間結果が手違
いで最終結果として公表さ
れ、翌日の新聞の1面に
「トップは日本庭園」など
と書かれたハプニング等こ
ざいしましたが、審査員一同
暑さをもとめせず頑張り

通して、至った結論は、
1位 日本
2位 オランダ
3位 中国
国際屋外庭園大規模の部
1位 日本
2位 オランダ
3位 中国
国際屋外庭園小規模の部
1位 南アフリカ
2位 ベルギー
3位 プータン
国際屋内常設展示の部
1位 日本

2位 ブルネイ
3位 ナイジェリア
この結果は翌日の新聞に大
きく取り上げられ、写真入の
記事となっておりました。
日本からは国際屋外庭園小
規模の部に兵庫県・大阪府・
京都府の共同出展庭園があり
ましたが、惜しくも5位以下
を大きく引き離し限りなく3
位に近い4位でした。

その時がくれば我々の孫
ひ孫、そのまた子供たちが
白波とみどりの松原で飛び
跳ね、自然の素晴らしさを
満喫することだろう。
ただし、学者の警告とお
り地球温暖化が進み、海侵
が砂浜を飲み込んでしまわ
ない限りという怖い条件付
きではあるが、



国際屋外庭園 日本が1位に



書籍紹介

美しい日本を創る

美しい景観を創る会編著
彰国社発行

まちづくりには様々な専
門家の手が入る。建築・土
木・都市計画・造園・農村

計画など各分野の有識者が
美しいまちづくりを目標に
集結したのが「美しい景観
を創る会」。2年間の活動の
中で10回のシンポジウムと
6回のセミナーを開催し美
しいまちづくりへの提言を
行ってきた。本書では6回
のセミナーの講演および対
談を収録。副題は「異分野
12名のトップリーダーによ

る連携行動宣言」。東京・日
本橋の高速道路高架橋、国
会議事堂背面の高層ビル群
日本の歴史的・文化的な景
観が破壊されている。こう
した中、有識者達は具体的
なイメージを提案しにつけ
てきた。日本の景観が評価
されるまで、まだ道は遠い。
本書で日本の景観を再生す
る心構えを学びたい。



(石川県支部事務局長・
田町靖夫)

麴町箱

早朝ラジオ
から懐かしい
歌がながれて
きた。「吾は
海の子白波の
騒ぐ磯辺の松
原に」。青
い海、光る砂浜、みどりの
松原、海水浴、キャンプフ
アイヤ、一瞬タイムスリッ
プした小学校時代の懐かし
い夏休みの思い出が頭をよ
ぎ。
しかし、それもつかの間、
朝刊に目をおとすと、
松くい虫による松原の
惨状を告げる記事が紙
面に広がっている。み
どりの枝が赤くなり、
立ち枯れしている松の
写真が痛ましい。県農
林部の方や協会員の
関係者から話を伺っ
てはいたが、こんなにひ
どい状態とは考えてい
なかった。
実は、4年前前から
協会の会合等で海岸の
松枯れが話題になり、
松枯れが話題になり、
石川県農林部の担当者
を講師に招き研修会を開い
たり、会員相互で対策を話
合ったりしてきた経緯があ
る。

みどりの松原よ蘇れ

少息の長い話となる
が、これらの「抵抗性松
が期待どおり、マツノサ
イセンチュウ」に対する
抵抗性を示し、その子孫
が石川の海岸に「みどり
の松原」を復活させるこ
とを心から願う次第であ
る。

50本を植栽した。
今後は毎年その成長
ぶりを注意深く観察
し、同時に植えた普通
の「松」との差異をデ
ータ化していく予定で
ある。

総・支部 だより

各総支部・支部からの記事を紹介しす

「愛ロードとちぎ」地域ボランティア活動について

栃木県支部

道路美化活動のもよう



本活動は、国道を対象に地域住民等がボランティア団体を組織し、市町及び道路管理者の3者が連携を密にし、道路美化活動を通して、地域住民等の結びつきをより充実するとともに、

道愛する心を育み、安全で快適な道路環境の維持向上を図ることを目的として、県内9カ所の土木事務所単位の展開がなされています。事業の概要は、10名以上のボランティアで組織し、県管理の道路100m以上を年間6回清掃活動を実施するものであり、登録業者は、栃木県建設工事総合評価落札方式において、加点されることになっております。

このことから、日造協栃木県支部がいたしても、栃木県造園建設業協会と合同で平成18年度から実施することとし、各地域の実施責任者等を選任し、各地域での実情を踏まえ協議を重ねて参りました。

特に問題になったのは、

会員の偏在であり、希薄な地域につきましても、他の地域の会員の応援や、更に非会員で本事業に賛同し協力いただける業者によりボランティアチームを編成することで課題を解決することができました。

ボランティアチームを土木事務所毎に登録し、「土木の日」に当たる11月18日県下一斉に清掃活動を実施いたしました。

歩道上の低木に高木からの落葉が食い込み、一葉ずつ取り出すという苦勞やジューズの空き缶・ペットボトル、更には家庭からの生ごみ等、道路利用者のモラルを疑いたくなるような光景を目にしたが、2時間程で作業を終了しました。清掃作業の参加者は、終了後、見違えた道路を見て、心地よい汗に充実感、達成感を味わいながら帰路に着きました。

今後、2カ月に1回のサイクルで参ります。

日本の故郷「飛鳥」の自然風景資源を守る

奈良県支部

わが国の古代の政治体制が確立され、考古学資料や歴史的な資料によって、古代日本の姿が、より明確になってきたのは、592年以降の飛鳥時代からではないかと思えます。

研究も日進月歩し、考古学的に実証されていることも数多くあり、さまざまな遺跡の研究から古代の実態は最近ではかなり克明に把握されてきましたが、私たちが実感として歴史を身近に感じるのには、やはり飛鳥時代以後のよつに思えます。

造園の歴史を辿りましても、私たちが教えられたことは、飛鳥時代に「鳥の大匠(おとぎ)」といわれる貴族がいて、その貴族の庭は飛鳥川から庭に水を引いて屋敷の近くに池をつくったので、このように呼ばれたといわれ、この「鳥の大匠」とは、推古天皇や聖徳太子の時代の人で、巨大な権勢を振るった蘇我馬子であったとされます。

「鳥」とは、造園上では、庭自体をいう場合や、庭の中の池泉にできる半島や池の中の島を言っています。既にこの時代から庭と言われる空間が発達していたことが、文献や発掘調査などによって実証されています。

さらに、飛鳥では近年の発掘調査によって多くの苑池や池泉、水道遺構なども数多く発掘されていますが、それが庭園であったのか、水道のような生活遺構なのか、いろいろ議論もあつてい



甘樫山万葉植物園路

これら多くの施設は、朝鮮半島から来日した踏子工

鮮半島から来日した踏子工

（支部長・増田泰男）

イクルで清掃活動を実施していき計画になっております。

（支部長・増田泰男）



「自分らしくやれる生活」と思い、山の

「自分らしくやれる生活」と思い、山の

ただた地道に努力のみ。そんな中で家族には、植木屋は奥の深い仕事なんだからと、お婆様が考えている文化・芸術・生活を完全に理解することは無理としても、自分で考えられる力を持つように、美術館にはよく連れて行きました。行く車中での人々とのすれ違いの中で体験学習を通して、人間ウォッチングを学び、人と「コミュニケーション」をとるの難しさを、その場の空気の読み方を学ばせ、人生の最短距離ではなく自分で考え、自分の足で歩いていくことを背中を見せながら歩いてきました。最近では電池切れの状態

いい起爆剤は「ないか」と若い頃のように、いろんな所に出かけては、通りすがりの景色や人々からのエネルギーを分けていたように、また、流れることのないように、自分らしく見つけていきたいと思います。

これが地元の人がよく言う「むんずんたかり」の「生き方」なのです。

富田昌弘 (株)富田造園デザイン代表取締役

古墳など、多くの貴重な遺跡や文化財があります。

また、自然に恵まれた美しい風景を楽しむこともできます。そこにはまた古代からの自然が息づいています。

明日香村は、この4カ所以外にも、自然に恵まれた風景が各所に点在しています。飛鳥川下流の稲渚地区の水の流れの美しさ、春は梅の花に彩られた段々畑、祝戸地区の春浅い田園風景、森林と林の中に浮かぶ春の岡寺の塔、自然の中に佇む飛鳥の家並み、岡寺のシヤクナゲの道、橋寺とマンジユシヤゲ、そして、稲渚近辺の秋の田園風景など、現在日本の風景から失われつつある自然の美しさを、今

事務局の動き

- 2(金) 沖縄国際洋蘭博覧会審査会・表彰式(3日)
- 5(月) 沖縄国際洋蘭博覧会第33回全国デザインコンクール表彰式
- 6(火) 「広報日造協」編集会議
- 7(水) 入札契約制度対応分科会
- 8(木) 街路樹樹形再生テクノロジー勉強会
- 13(火) 造園・環境緑化産業振興会事務局会議
- 15(木) 正副会長、常設3委員合同会議
- 20(火) 技術研修会、東北地方整備局との意見交換会
- 21(水) 造園建設業厚生年金基金理事会
- 27(火) 造園モノづくり意見交換会
- 28(水) 造園基幹技能者認定研修会(大阪)3月1日
- 2(金) 沖縄国際洋蘭博覧会審査会・表彰式(3日)
- 5(月) 沖縄国際洋蘭博覧会第33回全国デザインコンクール表彰式
- 6(火) 「広報日造協」編集会議
- 7(水) 入札契約制度対応分科会
- 8(木) 街路樹樹形再生テクノロジー勉強会
- 13(火) 造園・環境緑化産業振興会事務局会議
- 15(木) 正副会長、常設3委員合同会議
- 20(火) 技術研修会、東北地方整備局との意見交換会
- 21(水) 造園建設業厚生年金基金理事会
- 27(火) 造園モノづくり意見交換会
- 28(水) 造園基幹技能者認定研修会(大阪)3月1日
- 8(木) 造園基幹技能者認定研修会(名古屋)9日
- 9(金) 佐藤国際功労賞選定委員会
- 12(水) 造園基幹技能者試験委員会
- 13(木) 造園基幹技能者試験委員会
- 14(水) 造園基幹技能者試験委員会
- 15(木) 中央労働災害防止協会安全予知委員会
- 16(金) 建設業適正取引推進機構評議委員会
- 17(土) 富山県水見市園芸関係技術者養成研修会
- 20(火) 造園建設業(全国)総務委員会(全国)
- 22(木) 淡路花博覧会記念事業協会評議委員会
- 23(金) アクションプログラム推進特別委員会
- 28(水) 造園団体連携特別委員会
- 29(木) 修景協会常任理事会
- 30(金) 公園緑地財団評議委員会
- 31(土) 日本緑化センター理事会
- 建設業専門団体連合理事会

【3月】

5(月) 「広報日造協」編集会議

6(火) 入札契約制度対応分科会

明日香村は、今回の市町村合併でも併合されず、「明日香村」で残りまします。全国あちこちから「明日香村の名を無くさないで」との願いが叶ったのでしょ。

私たちが明日香を我われ

の宝として、また、国の貴重な自然風景資源として大切に守っていかたいと思つていいます。これらも明日香の自然を愛し、そして大切に保護して、飛鳥を訪れる人たちに古代の息吹を今に感じていただきたいと私たちは願っております。

(事務局長・石岡豊代)